

- 三、危險ナリト判定スル故障ヲ發生セシトキ
四、事故比較的輕易ナルモ將來ノ爲特ニ必要ト認メタルトキ

二

第二章 航空事故調査委員ノ編成及調査要領

第三條 委員ハ事故ノ種類ニ應シ調査ニ必要ナル將校同相當官陸軍技師若干名ヲ以テ編成シ其先任將校ヲ以テ長トス

委員長ハ委員ヲ指揮シ第一條ノ趣旨ニ基キ其事故ヲ調査シ先ツ航空事故要報作製ニ必要ナル資料ヲ次テ航空事故詳報作製ニ必要ナル資料ヲ部隊長ニ報告スルモノトス

委員ハ委員長ノ指揮ヲ受ケ各分擔業務ノ調査ヲ行フモノトス

第四條 陸軍航空本部長ハ必要ト認メタル場合又ハ部隊長ノ上申ニ基

キ航空事故調査委員ヲ任命シ増加派遣スルコトアリ

第五條 前條ノ増加派遣者ハ部隊長ノ任命セシ委員長ノ區處ヲ受ケ調

査ニ從事スルヲ通常トス

第六條 事故發生後應急已ムヲ得サルモノノ外ハ總テ調査完了マテ現

狀ノ儘之ヲ保存スルモノトス之カ爲要スレハ特ニ監視者ヲ附ス

ルモノトス

第七條 破損ノ狀況及調査ノ爲參考トナルヘキモノハ成ルヘク要圖又

ハ寫眞トシ之ヲ詳報ニ添附シ尙原因調査上特ニ必要ト認ムヘキ

部分ハ報告ト共ニ現品ヲ提出スルモノトス

第八條 原因不明ニシテ判決シ能ハサル場合ニ在リテモ其狀況及經緯

ヲ詳細ニ記載シ特ニ原因推定ノ憑據ヲ明確ナラシムルコトニ勉

ムルヲ要ス

第三章 報告

四

第九條 本規定ニ據ル航空事故報告トハ航空事故急報、航空事故要報、航

空事故詳報、航空事故特別報告及航空事故年報ヲ總稱ス

第十條 第二條一、二ノ航空事故ヲ惹起セル場合ニハ部隊長ハ直ニ陸軍

航空本部長ニ航空事故急報ヲ爲スト共ニ航空事故要報ヲ次テ航空事故詳報ヲ同官ニ提出スルモノトス

但第二條三、四ノ事故ニ對シテハ前項報告ノ一部ヲ適宜省略スルコトヲ得

第十一條 航空事故急報ハ電報又ハ電話等適宜ノ方法ヲ以テ急報スル

モノトス
航空事故急報ニハ通常左ノ事項ヲ含マシムルモノトス

- 一、事故發生日時
- 二、事故發生場所
- 三、演習ノ種類
- 四、機種(型式)番號
- 五、搭乗者官氏名
- 六、人員器材ノ損傷程度
- 七、其他特ニ必要ト認ムル事項

第十二條 航空事故要報ハ勉メテ事故發生當日之ヲ作製シ發送スルモノトス

航空事故要報ニハ事故ノ程度ニ應シ通常左ノ事項ヲ含マシムルモノトス然レトモ事故發生現地遠隔セルカ又ハ情況不明ノ際ハ報告事項ノ完備ニ拘泥スルコトナク機ヲ逸セス提出スルヲ要ス

- 一、事故發生年月日時
 - 二、事故發生場所
 - 三、機種(型式)及番號
 - 四、搭乗者官氏名
 - 五、任務及事故發生ノ概況
 - 六、搭乗者ノ受傷程度
 - 七、器材ノ損傷程度
 - 八、處置ノ大要
 - 九、其他必要ト認ムル事項
- 航空事故要報ニハ事故發生現地遠隔セルカ又ハ其原因専門的調査ヲ要スル爲規定ノ日次内ニ航空事故詳報ヲ提出シ難キヲ豫想セシトキハ其旨附記スルヲ要ス

第十三條 航空事故詳報ハ事故發生後概ネ十日以内ニ六部ヲ作製シ發送スルモノトス

航空事故詳報ハ附表第一ノ様式ニ據リ記載シ尙要スレハ左ノ事項ヲ記述添附スルモノトス

- 一、事故者ノ伎倆及性格竝將來ノ見込等ニシテ事故ニ關聯シ特ニ必要ト認ムル事項
- 二、事故發生ノ状態及其經過ニシテ詳述ヲ要スルモ規定欄内ニ記述シ得サル事項
- 三、事故者及關係者ニ就キ調査セシ事項
- 四、地形、天候氣象等ニシテ特ニ事故ニ關係アル事項
- 五、事故者ノ體驗及感想等ニシテ特ニ將來參考トナルヘキ事項
- 六、其他必要ト認ムル事項

航空事故詳報ニハ航空事故ニ關聯セル賞罰ハ必ス記載スルモ細部ニ互ラサルモノトス

落下傘ヲ使用セシトキハ附表第二ヲモ併セ添附スルヲ要ス

第十四條 秘密ニ屬スル器材又ハ事故ノ原因秘密ニ屬スル航空事故詳報ハ航空事故特別報告ト爲シ二部提出スルモノトス

第十五條 各部隊ハ毎年十二月三十一日現在調ヲ以テ航空事故年報ヲ作製シ翌年二月末日マテニ陸軍航空本部ニ三部提出スルモノトス

其様式左ノ如シ

事故生起月日	機種型式	原因	本部判決ニ對スル處置	改善結果	將來ニ關スル意見

第四章 審査及同要旨通報

第十六條 陸軍航空本部ニ於テハ航空事故審査委員ヲ設ケ各部隊ニ於テ惹起セシ航空事故ニ關スル諸報告及送付セラレシ現品等ニ就キ審査ヲ行フモノトス而シテ審査上現地ノ踏査又ハ更ニ他ノ資料ノ蒐集ヲ要スルトキハ所要ノ委員ヲ派遣スルコトヲ得

第十七條 陸軍航空本部ハ審査ノ結果必要ナル事項ヲ關係各部隊官衙

附表第一 (規格B四號和紙白紙上)

式	機第	號航空事故詳報	調查委員		指 導 者	搭 乘 者 經 歷	器 材				事 故 發 生 日 時	事 故 發 生 場 所	天 候 氣 象	任 務	事 故 發 生 狀 態	原 因	理 由	處 置	將 來 二 關 心 之 意 見	摘 要	
			長	委 員			演習指揮官	直接指導者	區 分	機 體											發 動 機

年 月 日
部 隊 名

記載上ノ注意

- 一、關係ナキ事項ハ省略シ必要ノ欄ハ適宜増大スルモノトス
- 二、氣球事故ハ本様式ニ準シ調製スルモノトス
- 三、原因ハ概ネ左ノ區分ニ依リ記載スルヲ要ス
軍紀、指導、航法、操縱、器材、器材整備、器材取扱、不可抗力、體質、天候氣象、地形地物、其他
- 四、搭乗者殉職ノ場合ハ特ニ原籍地ヲ摘要欄ニ記スルモノトス
- 五、器材ノ損傷ハ大、中、小二區分シ記載スルモノトス
- 六、故障部品ハ番號、検査印等ヲ調査記載スルヲ要ス

附表第二

- 一、落下傘ノ種類、製作年月日及履歴
 - 二、事故發生時ヨリ操縦者、同乗者カ飛出セシ時マテノ飛行機ノ状態
 - 三、事故發生時ノ高度及其時機ニ於ケル飛行機ノ状態
 - 四、飛行機ヨリ操縦者、同乗者カ飛出セシ時ノ高度及其時機ニ於ケル飛行機ノ状態
 - 五、操縦者、同乗者カ飛出ノ際開傘ハ自動索、手動索ノ何レヲ使用セシヤ
 - 六、落下傘ヲ折疊ミタル年月日、場所、折疊者並其状態
 - 七、落下傘ノ降下状況
 - 八、著陸時ノ落下傘ノ状況
1. 破損箇所及其状況

2. 吊索ノ綫レノ有無及其狀態

3. 其他ノ狀態

九、體驗感想

十、其他必要ノ事項

航空事故調查規定

昭和十年四月
陸軍航空本部

房官臣大		課局務主		大臣	件名	番號	受領
了結	領受	出提	領受				
昭和	昭和	昭和	昭和	委	遞信省依託航空機操縱生教育人員件	參第	三六三號
年五月七日	年五月三日	年五月三日	年五月一日				
(裁決)行決		帶連		局長	高級	參與官	
長局	長局	局長	局長	副官	書記官		
長課	長課	課長	課長	主務	審案		
		主務	主務	課員	筆記者		

政務次官 回付

決裁(前連帶)課名

防

永久甲

決行(決裁)後

回覽課名

陸軍 航空部

陸軍 航空部

陸軍 航空部

陸軍 航空部

陸軍 航空部

陸軍 航空部

陸軍

陸普

陸軍航空本部長へ指令

四月二十六日附航教第二八三號申請、通認可

又

陸普第二五六四號

昭和十年五月四日



陸軍屬 竹内秀太郎

陸軍技手 佐々木國三

陸軍屬 齊藤丈之助

安

陸軍省 參第 三三三

航教第 二八三號

遞信省依託航空機操縱生教育人員ノ件申請

昭和十年四月二十六日

陸軍航空本部長

堀 丈夫

陸軍大臣 林 銑十郎 殿

昭和十一年度ニ於テ受託スヘキ航空機操縱生ノ人員ヲ四名ト定メ
度大正十二年陸普第一三六二號ニ依リ申請ス



九一
 局長
 決行指定
 決裁指定
 永久
 保存期限

大臣		件名		受番	
委		上海居留民國立日本商業學校教練查閱件		陸軍部 第九二三號	
局長	主務	次官	政務	次官	起元應(課)名
				參與官	徵募課
課長	主務	高級	副官	書記官	
				主務副官	
				官房御用掛	
				主務課員	
				審案	
				筆記者	

政務次官回付
 決裁前後連帶
 參與官回付

永久甲 紀吉

決行(決裁)後
 回覽課名

陸軍屬
 笛田文作
 大久保祐吉

331
 331

陸普 副官より第十二師参謀長へ通牒案

首題 査閲、爲、査閲官ハ本年
度以、降、貴、師、参、より派遣セラレ
度依、命、通、係、又

追テ右査閲官ハ在留地徴兵
身、作、檢、査、員、ト、同、一、人、ヲ、充、ツ
ル、毛、ノ、ト、シ、テ、處、理、相、成、度

陸普第二六〇四號 昭和十年五月六日



陸軍 第六八 田文 吉

保存期限

決裁指定

局長

決行指定

受領番號

報第230四號

起元應(課)名

第二十某師團

件名 紫野中學陸軍現役將技配屬停止關スル件

政務次官 回付

決裁前後連帶課名

補任課

決行(決裁)後回覽課名

永久申付

陸軍省
10.5.7
75
補任課

大臣	局長	主務局長	課長	主務課員
大臣	局長	主務局長	課長	主務課員

連帶

局長	課長
局長	課長

局長	課長
局長	課長

局長	課長
局長	課長

局長	課長
局長	課長

主

官

副官より文部省普通學務局長へ協議案

陸普

紫野中學ハ本年三月三十日附ヲ
以テ昭和十四年三月三十一日廢止
ノ件京都府知事ニ於テ認可セ
ル所同校在校生徒ハ本年四月
全部他校ニ轉學セルヲ以テ事實
上廢止ノ状態トナレリ依テ陸軍現
役將校學技配屬令第三條ニ依リ
同校配屬將校ノ配屬ヲ停止致シ
度協議ス

陸普第二六六三號 昭和十年五月九日



論任



陸軍省第一九號

1110日



陸軍

紫野中學廢止に伴現役將校配属方中止ニ関スル件通牒

昭和拾年五月四日

陸軍省副官外島清殿

第十六師團留守長官中島盛孝

紫野中學(京都中上京區紫野大徳寺)ハ昭和十年三月三十日附ヲ以テ同十四年三月三十一日限り(現在在校生ノ卒業期)廢止スヘキ文部大臣認可ノ指令アリト處全生徒ハ既ニ夫々他校ニ轉學セシラシテ去ル四月一日ヲ以テ事實止上廢止ノ状態トナリ現役將校ノ配属ヲ要セサルニ至リニ付通牒ス

追テ現配属陸軍歩兵少佐永吉實辰ヲシテ其ノ兼務校タル私立西洋中學外ニ於テ殘務並ニ學校教練青年訓練修了者檢定規程第五條第一項同第六條及陸軍補充令施行規則第八十二條規定ニ依ル事務ヲ承継セシムルヲ適當ト被存ニ付申奉

紫野中學廢止ニ關スル件通牒

昭和拾年三月廿日

陸軍省軍務局長永田鐵山殿

第十六師團留守參謀中園盛孝



首題ノ件曩ニ紫野中學々長ヨリ申請中ノ處今回
昭和十四年三月三十一日ヲ以テ廢止ノ旨京都府知事ヨリ認
可アリシニ付目下在校生ハ夫々他校ニ轉學方願出中ニシ
テ本月末事實上開校トナルニ付通牒ス

追テ開校後ニ於ケル兵役關係其他ノ事務ハ現配
屬將校永吉口實展ヲシテ其ノ服務校タル西洋中學
ニ於テ取扱ハシムルヲ適當ト被存ニ付申添フ

此等ノ件ニ對シ 專任指定 十四年三月廿日
原山 伸 長一ノ一四一

陸軍



午後海軍軍樂隊

四月三十日例祭 海軍軍樂隊

閱

報

第三〇四號

官普一〇二號

昭和十年五月十三日



文部省普通學務局長 河原 春

陸軍省副官 牛島 滿 殿

紫野中學陸軍現役將校配屬停止ニ關スル件

五月九日陸普第二六六三號ヲ以テ標記ノ件御協議ノ處當方ニ於テハ異議無之ニ付右御了承相成度

省

陸軍省

文

補任

陸軍省

陸軍省

181

三 隔 念 品 一 區 楚

總 督 辦 英 特 贈 人 員

二〇三〇(十八〇三)

永久甲 考音

保存期限

永久

決裁指定

決行指定

牛島

政務次官 回付 決裁前後連帶課名 軍事、兵務、勸業、主計 決行(決裁)後 回覽課名

受領番號 壹第 一六八七號 起元廳(課)名 外務省

件名 在外青年學校令案、關之九件

大臣 委

政務次官

次官

主務局長

參與官

高級副官

主務課長

書記官

主務副官 官房御用掛

主務課員

審案 筆記者

主務局長 受領番號 昭和三十年六月四日 提出 昭和三十年六月四日 領受 昭和三十年六月四日 了結 昭和三十年六月四日

連帶 局長

局長

課長

陸軍省 10.6.1. 午後 主計課

左 官

次官ヨリ外務次官宛回答案
陸密

昭和十年五月二十八日附亞ニ機密令第二二四四號ニ依ル
首題ノ案者令案諒承但シ当省ニ於テハ附則未
項ニ規定セル期間ハ左管期間短縮ノ資格ニ関係ナ
キモノト解シ此等過渡期ニ於ケル左管期間短縮向
題ニ関シテハ別ニ考慮スヘキニ付承知アリ度

陸密第三八四號

昭和十年六月四日



陸密第三八四號
陸密第三八四號
陸密第三八四號

建安府拜觀人員

七七九

新宿御苑拜觀人員

二〇三〇（七八〇戸）

二記念品ノ包装

徵察

黑田

急

領一六八七號

亞二機密合第二二四四號

昭和十年五月二十八日

外務次官 重光

陸軍次官 橋本 虎之助 殿

在外青年學校令公布ニ關スル件

滿洲及支那ニ設置セラルヘキ青年學校ノ準則トシテ今般別紙ノ如キ
 在外青年學校令ヲ起案シ可成速ニ外務省令ヲ以テ公布致シ度キニ付
 同案ニ付何等御意見モアラハ六月五日迄ニ御回報相成度
 尙本件在外青年學校令ハ法制局側ニ於テ別ニ勅令ヲ以テ公布スルノ
 必要ナシトノ意見ナリシヲ以テ外務省令ヲ以テ公布スヘキコトト致
 シタル次第ニ付爲念申添フ

昭和十年五月二十九日 陸軍省 大臣

陸軍省 10.5.29 陸軍省 陸軍省 陸軍省

外務省 陸軍省

外務省

秘

未定稿

外務省令第 號

在外青年學校令左ノ通定ム

昭和十年 月 日

外務大臣廣田弘毅

在外青年學校令

第一條 在外青年學校ハ男女青年ニ對シ其ノ心身ヲ鍛鍊シ德性ヲ涵養スルト共ニ職業及實際生活ニ須要ナル知識技能ヲ授ケ以テ國民タルノ素質ヲ向上セシムルヲ目的トス

第二條 居留民國ハ在外青年學校ヲ設置スルコトヲ得

第三條 居留民國ニ代リ其ノ事務ノ一部ヲ行フ公益法人、領事館令ヲ以テ設立セラレタル居留民會及外務大臣ノ指定シタル團體ハ在外青年學校ヲ設置スルコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ設置セラレタル青年學校ハ之ヲ居留民國立青年學校ト看做ス

第四條 私人ハ在外青年學校ヲ設置スルコトヲ得

外務省

一〇五二五 戊

第五條 在外青年學校ヲ設置セントスルトキハ左ノ事項ヲ具シ所管領事官ヲ經テ外務大臣ノ認可ヲ受クベシ

一 名稱

二 位置

三 學則

四 生徒概數

五 開校年月

六 經費及維持ノ方法

前項第一號、第二號及第五號ノ變更ハ所管領事官ヲ經テ外務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第一項第二號ノ位置ニ關スル申請ニハ校地ノ面積、校舍其ノ他ノ建物ノ配置及附近ノ情況ヲ記載シタル圖面ヲ添付スベシ

第六條 在外青年學校ヲ廢止セントスルトキハ其ノ事由及生徒ノ處分方法ヲ具シ所管領事官ヲ經テ外務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第七條 在外青年學校ノ設置者ヲ變更セントスルトキハ第五條第一項第一號乃至第四號及第六號ノ事項竝ニ變更ノ事由ヲ具シ所管領事官ヲ經テ外務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第八條 在外青年學校ニ於テハ校地、校舍、體操場及校具ヲ備フベシ

第九條 位置ノ變更ニアラザル校地ノ變更竝ニ校舍其ノ他ノ建物ノ建設又ハ變更ハ圖面ヲ具シ所管領事官ノ認可ヲ受クベシ

第十條 在外青年學校ハ在外指定學校等ニ併設スルコトヲ得

第十一條 在外青年學校ニ普通科及本科ヲ置ク但シ土地ノ情況ニ依リ普通科又ハ本科ノミヲ置クコトヲ得

在外青年學校ニハ研究科ヲ置クコトヲ得

第十二條 普通科ノ教授及訓練期間ハ二年トス

本科ノ教授及訓練期間ハ男子ニ在リテハ五年、女子ニ在リテハ三年トス但シ土地ノ情況ニ依リ男子ニ在リテハ四年、女子ニ在リテ

ハ二年ト爲スコトヲ得

研究科ノ教授及訓練期間ハ一年以上トス

第十三條 普通科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ尋常小學校卒業者又ハ之ニ相當スル素養アル者トス

本科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ普通科終了者、高等小學校卒業者又ハ之ニ相當スル素養アル者トス

研究科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ本科卒業者又ハ之ニ相當スル素養アル者トス

第十四條 普通科ノ教授及訓練科目ハ男子ニ在リテハ修身及公民科

普通學科、職業科竝ニ體操科トシ女子ニ在リテハ修身及公民科、

普通學科、職業科、家事及裁縫科竝ニ體操科トス

本科ノ教授及訓練科目ハ男子ニ在リテハ修身及公民科、普通學科

職業科竝ニ教練科トシ女子ニ在リテハ修身及公民科、普通學科、

職業科、家事及裁縫科竝ニ體操科トス

研究科ノ教授及訓練科目ハ本科ノ教授及訓練科目ニ就キ適宜之ヲ定ムベシ但シ修身及公民科ハ之ヲ缺クコトヲ得ズ

第十五條 普通科ノ各年ニ於ケル各教授及訓練科目ノ教授及訓練時數ハ男子ニ在リテハ第一號表、女子ニ在リテハ第二號表ノ時數以上ニ於テ土地ノ狀況ニ依リ適宜之ヲ定ムベシ

本科ノ各年ニ於ケル各教授及訓練科目ノ教授及訓練時數ハ男子ニ在リテハ第三號表、女子ニ在リテハ第四號表ノ時數以上ニ於テ土地ノ狀況ニ依リ適宜之ヲ定ムベシ但シ男子ニ於テ教授及訓練期間ヲ四年ト爲シタル場合ニ在リテハ第三號表ノ第一年乃至第四年、女子ニ於テ教授及訓練期間ヲ二年ト爲シタル場合ニ在リテハ第四號表ノ第一年及第二年ノ時數以上トス

第一號表

教授及訓練科目	年	
	第一	第二
修身及公民科	二〇	二〇
普通學科	九〇	九〇
職業科	六〇	六〇
體操科	四〇	四〇
合計	二一〇	二一〇

外務省

444

第二號表

教授及訓練科目	年	
	第一	第二
修身及公民科	二〇	二〇
普通學科	八〇	八〇
職業科	八〇	八〇
家事及裁縫科	八〇	八〇
體操科	三〇	三〇
合計	二一〇	二一〇

外務省

第三號表

教授及訓練科目	年	修身及公民科	普通學科	職業科	教練科	合計
	第一年	二〇	五〇	七〇	七〇	二一〇
	第二年	二〇	五〇	七〇	七〇	二一〇
	第三年	二〇		九〇	七〇	一八〇
	第四年	二〇		九〇	七〇	一八〇
	第五年	二〇		九〇	七〇	一八〇

外務省

第四號表

教授及訓練科目	年				
	第一	第二	第三	年	年
修身及公民科	二〇	二〇	二〇		
普通科	五〇	五〇	五〇		
職業科	一〇	一〇	一〇		
家事及裁縫科	一〇	一〇	一〇		
體操科	三〇	三〇	三〇		
合計	二一〇	二一〇	二一〇		

外務省

第十六條 在外青年學校ノ教授及訓練ハ土地ノ情況ニ應ジ適當ナル時刻及季節ニ於テ之ヲ行フベシ

第十七條 在外青年學校ノ入學期ハ毎年四月トス但シ特別ノ事情アル者ハ中途之ヲ入學セシムルコトヲ得

第十八條 特別ノ事情アル者ハ其ノ年齢及素養ニ應ジ之ヲ普通科第二年又ハ本科若ハ研究科ノ第二年以上ニ入學セシムルコトヲ得

第十九條 他ノ青年學校ノ生徒ニシテ轉學ヲ志望スルモノアルトキハ之ヲ相當科ノ相當年ニ入學セシムルコトヲ得

第二十條 學校長ハ普通科ノ課程ヲ修了シタル者ニハ修了證、本科ノ課程ヲ修了シタル者ニハ卒業證ヲ授與スベシ

第二十一條 在外青年學校ニハ相當員數ノ專任教員ヲ置クベシ

第二十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ在外青年學校ノ教員タルコトヲ得

一 青年學學校教員養成所ヲ卒業シタル者

三、實業學校ノ教員タルコトヲ得ル資格ヲ有スル者

三、小學校本科正教員又ハ小學校專科正教員ノ免許狀ヲ有スル者

四、外務大臣ノ指定シタル者

在外青年學校ニ在リテハ所管領事官ノ認可ヲ受ケ前項ノ資格ヲ有セザルモノヲ教員トシテ採用スルコトヲ得

第二十三條 居留民國立青年學校ニハ生徒ノ教育ヲ擔任セシムル爲指導員ヲ置クコトヲ得

指導員ハ所管領事官之ヲ囑託ス

指導員ニハ手當ヲ給スルコトヲ得

第二十四條 在外青年學校ノ學則ニハ左ノ事項ヲ規定スベシ

一、科竝教授及訓練期間ニ關スル事項

二、教授及訓練科目竝ニ教授及訓練時數ニ關スル事項

三、教授及訓練ノ時刻竝ニ季節ニ關スル事項

四、課程ノ修了及卒業ノ認定ニ關スル事項

五 入學、退學ニ關スル事項

六 其ノ他必要ナル事項

前項第一號及第二號ノ變更ハ所管領事官ヲ經テ外務大臣ノ認可ヲ受ケ第三號乃至第六號ノ變更ハ所管領事官ヲ經テ外務大臣ニ開申スベシ

第二十五條 在外青年學校ニハ學籍簿及出席簿ヲ備フベシ

第二十六條 在外青年學校ニ於テハ平素生徒ヲシテ其ノ修學情況ヲ明カニスベキ手帳ヲ所持セシムベシ

第二十七條 在外青年學校ニ於テハ隨時講習ヲ爲スコトヲ得

第二十八條 在外青年學校ニ於テハ授業料ヲ徵收スルコトヲ得ズ但

シ所管領事官ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十九條 本令ニ依ラザル學校ハ青年學校ト稱スルコトヲ得ズ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

在外青年學校ノ本科ノ教授及訓練期間ハ土地ノ情況ニ依リ所管領事官ノ認可ヲ受ケ當分ノ内之ヲ男子ニ在リテハ二年又ハ三年ト爲スコトヲ得

在外青年學校ノ專任教員ハ所管領事官ノ認可ヲ受ケ當分ノ内之ヲ置カザルコトヲ得

昭和十年度ニ限り七月三十一日迄ニ入學シタル者ハ四月一日ニ入學シタル者ト見做ス

陸海軍軍用糧食、菓子、愛國恤兵會記念品、繪葉書等ハ左ノ通風呂數ニテ
 包装シ各戸ニ一箇宛交付スルノ準備ヲ爲ス

四月廿三日

永久甲

保存期限

決裁指定

決行指定



政務次官 回付 決裁後 連帶 課名 書記官

決行(決裁)後 回覽課名

受領 番號

肆第 〇七五二 號

起元應(課)名

近來次次七師

件名

學校配屬將校事務引継ノ件

大臣

次官

高級 副官

主務副官

審案 筆者

主務 局長

主務 課長

主務 課員

主務局 受領 昭和 年 月 日
 提出 昭和 年 月 日
 昭和 年 六月 廿 日

大臣官房 受領 昭和 年 月 日
 了結 昭和 年 月 日
 昭和 年 六月 廿 日

決行(決裁)後 回覽

局長

課長

臣

官

告示案

官報照合

陸軍省告示第二十八號
左記上^補學^校廢止ニ付元同校

卒業者又中途退學者ニ關ス

ル學校教練及青年訓練修了者

檢定規程第五條第一項同第六

條及陸軍補充令施行規則第八

條^{相當}下^補學^校依ル事務ハ之ヲ承

繼セシメ夕リ^{陸軍大臣林銑十郎}

昭和十年 月 日

陸軍大臣林銑十郎

陸軍省告示第二十八號

四月廿三日

委員、委員、委員

陸軍省告示第二十八號

陸軍省告示第二十八號

陸軍省告示第二十八號

一、對峙... 四、對峙... 婚... 婚...

小樽市水產學校、函館市水產學校

ノ誤、詳六月二十七日正誤

水産學校

東京帝國大學農學部資料	東京高等農林學校
北海道帝國大學附屬水產專門部	函館小樽高等水產學校
熊本縣立矢部農學校	熊本縣立御船中學校

刻官... 近衛第六第七師參謀長

通條案

陸並日

東京帝國大學農學部資料	(五)
熊本縣立矢部農學校	(六)
北海道帝國大學附屬水產專門部	(七)

先主 單

關スル學校教練及青年訓練修了者
 檢定規程第五條第一項、同第六
 條及陸軍補充令施行規則第六
 八十二條、規定ニ依ル事務ハ之ヲ
 東京高等農林學校 (近來)
 熊本縣立御船中學校 (天六)
 小樽高等水產學校 (天七)
 〃引繼カシメラレ度依命通曉久
 東京高等農林學校 (近來)
 熊本縣立御船中學校 (天六)
 小樽高等水產學校 (天七)
 追テ右ニ依リ
 函館

四、接待所ノ設備

一、接待所ハ昨年ノ如ク相撲場ヲ新祭神遺族休憩所トシ概ネ好結果ヲ收メタリ

五、接待所ノ實施

一 運務接待ノ業務ハ魏メ細部ノ實施要領ヲ定メ實施セリ
二 受付及記念品等ノ交付

四月廿五日正午ヨリ受付及記念品等ノ交付ヲ開始セリ 受付人員左表ノ如ク

配屬將校ニ於テ教練檢定合格證明書又ハ教練證明書等ヲ作製スル場合ニ於テハ該書面適宜ノ場所ニ昭和十年陸軍省告示第^{三十八}號參照ト記載セシメラレ度

陸普第三五三六號 昭和十年六月廿二日

注意

一 内ハ關係師團ノ學校ヲ記シタルモノ
ニ 付為念

陸軍省 陸軍部 陸軍大臣 陸軍部 陸軍部 陸軍部

近司第一二七號

學校配屬將校事務引繼ノ件申請

昭和十年四月廿五日

近衛師團長 鳩彦

陸軍大臣 林銑十郎 殿

近衛師團長 王

東京帝國大學農學部實科廢止ニ就キ學校教練及青年學校修了者檢定
規程第五條第一項、同第六條及陸軍補充令施行規則第八十二條ノ規
定ニ據ル事務ハ之ヲ東京高等農林學校配屬將校ニ引繼セシメラレ度
申請ス

昭和十年四月二十六日 午前六時 陸軍大臣官

陸軍

陸軍部 10-5-1 第30號

第六師團學教發第一六號
司令部

學校廢止ニ伴フ學校教練事務引繼ニ關スル件上申

昭和十年五月三日

第六師團長 香 椎 浩

陸軍大臣 林 銑 十 郎 殿

熊本縣立矢部農學校ハ昭和八年三月縣令第十四號學則改正ニヨリ本年三月十五日ヲ以テ甲種制度廢止セラレ同在學者無之ニ就テハ同校卒業又ハ在學シタルモノニ對スル學校教練及青年訓練修了者檢定規程第四條第一項ニ關スル原簿ノ保管、第五條、第六條ノ規程ニ依ル事務ハ之ヲ左記學校服務將校ヲシテ引繼セシメラレタシ

左記

一 熊本縣立御船中學校

上益城郡木倉村

右學校ヲ選定シタル理由

同郡ナルト配屬將校ハ兩校兼務ナリシニヨル



第八〇〇



陸軍

徵募

陸軍部第一八二五號



軍

學校配屬將校事務承継告示方ニ關スル件上申

昭和拾年六月七日

第七師團長杉原美代太郎

陸軍大臣林銑十郎殿



北海道帝國大學附屬水產專門部廢止ニ付同部ニ對スル卒業者又ハ中途退學者ニ關スル學校教練及青年訓練修了者檢定規程第五條第一項、同第六條及陸軍補充令施行規則第八十二條ノ規定ニ依ル事務ヲ承継スルニ配屬將校左記ノ通告示相成度上申ス

左記

廢止學校名

北海道帝國大學附屬水產專門部

承継配屬將校所屬學校名

北海道函館高等水產學校

此日天爵皇我於海軍官臣リ戀世大以歸照テリ又懸出入類谷人跡草及即前
二、總發の財ハ海軍出サハ以難越テ世少隣英兵艦セ準備サレシム

23

保存期限
決裁指定
次官
決行指定

大臣 <i>委</i>		件名 各隊特業修業者取扱規則中改正ノ件		受番 陸軍省 第一二一五號	政務次官 回付 決裁前後連帶課名 陸軍省 第一四六號 動員課
大房官	主務局長 局長	次官	政務次官 參與官	起元廳(課)名 軍事課	陸軍省 10.6.12 第46號 動員課
了結 昭和 年 六月廿九日	領受 昭和 年 六月十四日	提出 昭和 十年 三月十四日	領受 昭和 年 月 日	番號 領受 陸軍省 第一二一五號	陸軍省 10.6.11 第24號 海軍課
(裁決)行決後 覽回		連帶			陸軍省 10.6.10 第99號 器材課
局長	局長 <i>橋本</i>	高級副官 <i>橋本</i>	參與官		
長課	長課 <i>山田</i>	主務副官 <i>牛島</i>	書記官		
	<i>西条</i>	主務課員 <i>松本</i>	筆記者 <i>水</i>		
	<i>田</i>				

陸軍

參謀總長、教育總監、照會案(陸普)
首題件ニ關シ別紙ノ通改正致度異存無クハ令達
スヘク照會ス

(別紙)

陸普第三三八九號

昭和十年六月十五日

右異存ナキ回答アリタル後

陸軍一般へ達案(陸普)

(別紙)

陸普第三五五〇號 昭和十年六月廿四日



午後十二時二十分終了ス拜觀後ハ逐次ニ自動車ニ依リ明治神宮外苑水泳場
ニ輸送シ他ノ拜觀セサル遺族ヲ併セ御苑拜觀ヲ準備セシム
此日天候良好侍從武官ヨリ懇切ナル説明アリ又退出ノ際各人御煙草及明治

陸普第

號

各隊特業修業者取扱規則中改正、件達

陸軍一般

各隊特業修業者取扱規則中特業修業者
定員表之別表、通改正ス

昭和十年六月

日 陸軍大臣 林銑十郎

附則

本達ハ昭和十年十二月一日ヨリ之ヲ實施ス

特業修業者定員表 (陸普案)

Main data table with columns for various military units (e.g., 步兵隊, 騎兵隊, 砲兵隊), personnel counts, and specialized skills (e.g., 砲射, 機電, 工機). Includes a '備考' section on the left with detailed notes.

備考 (Remarks) section containing detailed handwritten notes and administrative instructions regarding the personnel and units listed in the table.

閱

軍事



新

遺

族

舊

遺

族

特

別

貳 第一二一五號



陸軍

參謀本部

庶日第

二

號ノ三一

各隊特業修業者取扱規則中改正ノ件回答

昭和十年六月十八日

參謀總長 載

仁

親

陸軍大臣 林 銑十郎 殿



首題ノ件ニ關シ六月十五日陸普第三三八九號ヲ以テ照會ノ趣異存ナシ

軍事

貳

一三五

教庶第壹貳〇六號



陸軍

各隊特業修業者取扱規則中
改正ノ件回答

昭和拾年六月拾八日

教育總監真崎甚三郎

陸軍大臣 林銑十郎殿

六月十五日附陸普第三三八九號照會ニ係
ル首題ノ件異存ナ

保存期限

決裁指定

決行指定

牛島

次官

四二

政務次官
回付

決裁前後連帶
課名

兵衛、兵部、衣、器、錦

決行決裁後
課名

永久甲 表

陸軍省 10.6.12 第4號 動員課

陸軍省 10.6.12 馬政課

陸軍省 10.6.11 第27號 徵集課

陸軍省 10.6.10 第96號 衣櫃課

受領番號
陸軍省 第一二二二號
起元廳(課)名

軍事課

陸軍省

10.6.13 第4號 器材課

陸軍省 10.6.14 第4號 衣櫃課

大臣 委

政務次官

次官

主務局長

參與官

高級副官

主務課長

書記官

主務副官
官房御用掛

主務課員

主務局長
受領番號
昭和三十年三月十四日
提出
昭和三十年六月十五日
受領
昭和三十年七月二日
了結

軍事第八號

決行決裁後
覽回

局長

連帶

局長

長課

長課

左軍



參謀總長、教育總監へ照會案(陸普)

首題ノ件ニ關シ別紙ノ通改正致度異存無ク人令

達スヘク照會ス
陸普第三四一〇號 昭和十年六月十七日

左異存ナキ回答アリクニ後

副官ヨリ陸軍一般へ通牒案(陸普)

(別紙)
陸普第三六二六號 昭和十年六月廿六日



陸軍掛ノ業務ハ例大祭ヲ通シ四月廿六日ヨリ五月一日ニ至ル六日間實施シ餘

陸軍第 號

工卒同修業者茲專務卒教育及取扱規則
中改正ノ件 陸軍一般へ通牒

昭和十年 月 日 陸軍省副官牛島満

工卒同修業者茲專務卒教育及取扱規則中左
ノ通改正セラル

本規則中「工卒」ヲ「工務兵」ニ「專務卒」ヲ「專務兵」
ニ「火工卒」ヲ「火工兵」ニ「鞍工卒」ヲ「鞍工兵」ニ「銃工卒」
ヲ「銃工兵」ニ「木工卒」ヲ「木工兵」ニ「鍛工卒」ヲ「鍛工兵」ニ
「蹄鐵工卒」ヲ「蹄鐵工兵」ニ「縫工卒」ヲ「縫工兵」ニ「靴工卒」

ヲ「靴工兵」ニ改ム
附表第一
五及專務卒定員表ヲ別表ノ通改ム

附 則

昭和八、九年徵集兵ニ就テ八南條前ノ例ニ依ル

興備全員六二編總少其州路突ノ破

陸軍部

工務兵及專務兵定員表 (陸普案)

考	備	隊		中	隊	火工兵	靴工兵	銃工兵	木工兵	鍛工兵	蹄鉄工兵	縫工兵	靴工兵	專務兵
		右記以外ノモノ	右記ノモノヲ除ク											
		步兵聯隊	機関銃隊	中	隊									
		獨立守備步兵大隊	中	隊										
		戰車聯隊	中	隊										
		騎兵聯隊	中	隊										
		野砲兵聯隊	中	隊										
		山砲兵聯隊	中	隊										
		獨立山砲兵聯隊	中	隊										
		騎砲兵聯隊	中	隊										
		野戰重砲兵聯隊	中	隊										
		重砲兵聯隊	中	隊										
		重砲兵大隊	中	隊										
		高射砲聯(大)隊	高射砲中隊	隊										
		台灣山砲兵大隊	照空	中隊										
		台灣高射砲隊	中	隊										
		工兵大隊	中	隊										
		鐵道聯隊	中	隊										
		電信聯隊	中	隊										
		電氣中隊	中	隊										
		飛行聯隊	中	隊										
		氣球隊	整備	隊										
		輜重隊	第一中隊	隊										
		砲兵大隊	第二中隊	隊										
		大隊	中	隊										

一 本表(中)ノ附(六)ノ隊(大)ノ人員ヲ、其他ノ單位部隊毎ノ人員ヲ、特(ト)記(ハ)ル(者)期(毎)二輛(重)砲兵聯隊(中)ニ含(有)セ(ル)人員ヲ示(ス)又
 第二佐(函)等(八)夫(其)行(上)段(ノ)部隊(番)號(又)ハ(佐)世(係)函(館)等(ノ)冠(稱)ヲ示(ス)
 二 火(二)兵(聯)隊(兵)兵(兵)定(員)中(ニ)其(他)ノ工(務)兵(及)專(務)兵(ハ)一(ニ)等(兵)ノ注(員)中(ニ)含(マ)シ(ム)セ(ト)ス
 三 本(表)ノ定(員)ハ(年)次(徵)集(兵)輜(重)兵(特)務(兵)在(リ)テ(ハ)五(年)期(ニ)就(テ)ノ人員ヲ示(ス)又(ハ)團(隊)長(ハ)要(ス)ル(所)管(轄)區(内)ノ認(可)シ(テ)受(テ)工(務)兵(ノ)人員ヲ増(加)ス(ル)コトヲ
 得(但)シ(テ)兵(隊)在(リ)テ(ハ)工(務)兵(及)同(修)業(者)ノ増(加)人員ヲ專(務)兵(定)員(中)ヨリ(減)少(ス)ル(ト)ス
 四 第十九師團ノ步兵聯隊及步兵聯隊定員增加區分表ニ依(ル)部(隊)在(リ)テ(ハ)其(ノ)編(制)定(員)ノ他(隊)隊(編)制(定)員(ニ)對(シ)ル(比)率(ヲ)本(表)定(員)ニ(乘)シ(テ)人員
 ヲ以(テ)定(員)ト(ス)ル(ト)ス
 五 野戰(兵)聯(隊)第十(中)隊(及)電(信)聯(隊)ノ固(定)無(線)隊(在)リ(テ)ハ(其)ノ編(制)定(員)ノ所(屬)隊(隊)他(中)隊(ノ)編(制)定(員)ニ(對)シ(テ)比(率)ヲ
 本(表)定(員)ニ(乘)シ(テ)人員ヲ以(テ)定(員)ト(ス)ル(ト)ス(但)シ(野)戰(兵)聯(隊)第十(中)隊(ニ)於(テ)蹄(鉄)工(兵)ノ定(員)ハ(二)名(ト)ス
 六 新(設)及(編)制(改)正(ノ)部(隊)ニ(テ)若(牛)順(序)在(部)隊(中)ノ銃(工)兵、縫(工)兵、靴(工)兵、專(務)兵(ノ)數(ハ)其(ノ)現(在)人員ノ編(制)定(員)ニ(對)シ(テ)比(率)ヲ本(表)定(員)ニ
 乘(シ)テ人員ヲ以(テ)定(員)ト(ス)ル(ト)ス
 但(シ)蹄(鉄)工(兵)在(リ)テ(ハ)馬(車)ノ整(備)ニ(伴)ヒ(本)定(員)ヲ充(足)ス(ル)ト(ス)

屋組合、柳橋藝妓屋組合、松竹奉納ノ各種演藝ヲ五日間ニ互リ午後六時半ヨ
リ午後九時半乃至午後十時ニ至ル間實施スル日ニ於テハ、各該組合等ヲ收容シ盛況ヲ

閱

牧

貳 第一三二二番其二

參謀本部 庶日第一二 號三三



陸軍



陸軍

壬午同修業者並事務卒教育及取扱規則中改正ノ件回答

昭和十年六月二十一日 參謀總長 載仁親王

陸軍大臣 林銑十郎 殿

首題ノ件ニ関シ六月十七日陸普第三四一〇號ヲ
以テ照會ノ趣異存ナシ



貳 第一二二二六



陸軍

教庶第一二二七號

工卒同修業者並專務卒教育及取扱規則中
改正ノ件回答

昭和十年六月十九日 教育總監 眞崎 甚三郎



陸軍大臣 林 銑十郎 殿

昭和十年六月十七日陸普第三四一〇號ヲ以テ照會ニ係ル首題ノ件異

存無之

軍事



廿六日三〇五九一日二至八六日間並一與土外火七寶賦ナリ

保存期限
 決裁指定
 局長
 決行指定
 五二

房官臣大		課局務主		大臣 林 委	件名 關西學院專門部神學部陸軍現役特技配屬件	番受 領受 號 第一三〇五	政務大官 回付 決裁前後 連帶 課名 補任
了結	領受	出提	領受				
昭和 年 七月二日	昭和 年 六月廿七日	昭和 十年 六月廿七日	昭和 年 月 日	軍機第七三號			
(裁決)行決 寬回後		帶連		局長 主務	政務 次官		
局長		局長		課長 主務	高級 副官	參與官	
長課		長課		主務課員	主務副官 官房御用掛	書記官	
						審案 筆記者	

永命
蓋章

決行(決裁)後
回覽課名
 10.6.25
 109
 補任課

三三三

副官より第四師参謀長へ通牒案

陸普

貴管下左記學校神學部對陸

軍現役將校學校配屬令第二條

ノ規定依り爾今陸軍現役將

校ヲ配屬セシメラレタルニ付承知

相成度

追テ右ハ同校現服務者ヲシテ實

施セシムル義ニ付申添フ

記

陸普第三六八四號

昭和十年六月廿九日

関西學院專門部

ル者亦多數ニ上リタリ

七花火

廿六日ヨリ五月一日ニ至ル六日間近歩一堤上花ヲ實施セリ

十二、外苑ノ興行及露店

前例ニ依リ興行及露店ノ代表者ヲシテ全般ノ取締ニ任セシメ又憲兵及掛員巡

永久甲

軍事課
10.1.0
30

軍事課
0.7.6
115

保存期限

永久

決裁指定

局長

決行指定

牛島

政務次官
回付
決裁前後
連帶
課名
軍事
兵務

受番
領號
陸軍省
貳第三八八九號

決行(決裁)後
回覽
課名

起元應(課)名

件名
下士官候補者陸軍教導學校入學區分変更関係件

政務
次官

大臣
委員

參與官

書記官

審案
筆者

主務
局長

次官

高級
副官

主務副官
官房御用掛

主務
課長

主務課員

軍徴第七九號

主務
號番

連帶
局長

長課

局長
受領

昭和十年七月八日

大臣
受領

昭和十年七月九日

大官
了結

昭和十年七月廿一日

決行(決裁)後
回覽

局長

長課

官

官

副官ヨリ教育總監部庶務課長、各師團、
臺灣軍、関東軍參謀長宛通牒案

(第三、第九、第十六師團、留守部經由)

陸普

下士官候補者陸軍教導學校入學區分ヲ別表ノ通
變更シ本年末ノ入學者ヨリ適用セラルルニ付彙知相
成度

陸普第三九〇三號

昭和十年七月九日

陸軍省庶務課長宛

陸軍省

入甲



前附ニ対シ興行及雜費ノ弁表書キテ全額ハ庫藏ニ付シ、又憲兵及樹員巡

十二代、興行及雜費

別表

下士官候補者陸軍教導學校入學區分表

學		校		師		團 (軍)	
仙臺陸軍教導學校		近衛、第一、第二、第七、第八、第十四、第十六師團		各師團、臺灣軍、關東軍		(獨野砲兵第一大隊除)	
豐橋陸軍教導學校		第三、第四、第九、第十、第十一、第十九、第二十師團、臺灣軍		第五、第六、第十二師團、關東軍			
騎兵學生隊							
砲兵學生隊							
熊本陸軍教導學校							
備考		本表、入學區分、各部隊下士官候補者採用數、現況、其他必要ニ應シ変更スルコトアリ					

別表

下士官候補者陸軍教導學校入學區分表

學 校		師 團 (軍)	
仙臺陸軍教導學校		近衛、第一、第二、第七、第八、第十四、第十六師團	
豊橋陸軍教導學校		第三、第四、第九、第十、第十一、第十九、第二十師團、臺湾軍	
騎兵學生隊	砲兵學生隊	各師團、臺湾軍、關東軍 (獨步砲兵第一大隊除)	
熊本陸軍教導學校		第五、第六、第十三師團、關東軍	

備考
 本表、入學區分、各部隊下士官候補者採用數、
 現況、其他必要ニ應、變更スルコトアリ

保存期限
 決裁指定 **局長**
 決行指定 **牛島**
 七二第

政務次官 回付
 決裁前後一連帶
 課名 **補任**

交甲 方方

決行(決裁)後
 回覽課名

軍省
 10.7.2
 補任課

受番 領受
 號 **第一四二一**
 起元廳(課)名
 件名 **陸軍現役將校配屬學校ニ関スル件**
 徵募課

大臣 **陸軍大臣**
 政務次官
 次官
 高級副官 **牛島**
 主務副官
 官房御用掛
 書記官
 審案
 筆記者

主務局長
 主務課長
 主務課員
 局長
 局長
 局長

大臣官房
 領受
 昭和三十七年七月十日
 提出
 昭和三十七年七月十日
 主務局長
 局長
 局長

陸軍省

副官より近衛侯二侯五侯六侯八侯十二侯十九
第二十師參謀長へ通牒案

陸普

貴管下左記學校ニ對シ近ク現役將

校ヲ新ニ配屬セラル豫定ニ付

内報ス

追テ配屬後ニ於ケル服務ニ支障

ナキ様可然指導相成度申

添フ

記

陸普第三九六〇號 昭和十年七月十一日

中央大學專門部



武蔵野音樂學校

（東京府）

埼玉中學校

所澤實業學校

大宮農商學校

以上近衛

麻布獸醫專門學校

以上第一

山陽商業學校（第一本報）

以上第二

麻見島高等商業學校

麻見島縣立市來農藝學校

別府市立別府中學校

以上第六

金石商業學校

以上第五

福岡縣企救園藝學校

以上第八

佐賀縣五佐賀農藝學校

以上第十

會寧公立商業學校

以上第十

春川公立高等普通學校

以上第十

咸興公立高等普通學校

以上第十

咸興公立農業學校

以上第十

咸興公立農業學校

以上第十

第二 朝鮮總督府

第一 朝鮮總督府

昭和十年國民徵圖輯朝鮮總督府報告目次

鏡城公立農業學校

春川公立農業學校

鏡城公立高等普通學校

以上第十九

海州公立高等普通學校

晉州公立高等普通學校

大邱公立高等普通學校

平壤公立高等普通學校

東萊公立高等普通學校

光州公立高等普通學校

新義州公立高等普通學校

111

111

關城公立商業學校
奉天山字二公立商業學校
東萊公立女子公立商業學校
平壤公立女子公立商業學校
大邱公立女子公立商業學校
釜山公立女子公立商業學校
海州公立女子公立商業學校
海州公立女子公立商業學校
海州公立女子公立商業學校
海州公立女子公立商業學校
海州公立女子公立商業學校
海州公立女子公立商業學校
海州公立女子公立商業學校
海州公立女子公立商業學校

五 接待ノ實施

第八 餘 興

一 軍人、學生對抗相撲

二 大 相 撲

保存期限
十五
決裁指定
次官委任
決行指定

房官臣大		課局務主		大臣		件名 陸軍砲工學校以下學生及練習生入學時期中改正	番受 軍省 貳第一三五二	政務大官回付 決裁前後連帶 軍務
了結	領受	出提	領受	局長	次官			
昭和 年 月 日	昭和 年 月 日	昭和 十年 七月 三日	昭和 年 月 日	局長	次官	陸軍省	陸軍省	陸軍省
(裁決行決)		帶連		高級		審記官		決行(決裁)後 回覽課名
長局		長局		副官		主務副官		
長課		長課		主務課員		主務副官		軍事課 10.6.28
長課		長課		主務課員		主務副官		陸軍省 10.6.28 時 計課
長課		長課		主務課員		主務副官		衛生

政務大官回付

決裁前後連帶

軍務

補

主

衛

醫

決行(決裁)後
回覽課名

軍事課
10.6.28

陸軍省
10.6.28
時
計課

陸軍省
10.6.28
衛生

十四 四

陸普大臣ヨリ教育總監及參謀總長

照會案
首題ノ件別紙ノ通改正致度異存ノ
有無照會ス

陸普第三八四〇號 昭和十年七月四日

右異存ナキ旨回答アリタル後
陸達案
(別紙ノ通)

陸達第十二號 十年七月十日

陸軍省軍務局長
陸軍省軍務局長
陸軍省軍務局長



三 三
六 六
六 六
六 六

十四
四

陸達第十三號

昭和八年陸達第十七號陸軍砲工學校以下學生
及練習生入學時期中左ノ通改正ス

昭和十年七月十二日

陸軍大臣 林 銑十郎

表中陸軍野戰砲兵學校ノ項ヲ左ノ如ク改ム

陸軍野戰砲兵學校

甲種學生	十二月月上旬
乙種學生	二月上旬
觀測通信學生	一月上旬
高射砲學生	二月上旬
照空學生	二月上旬
情報學生	一月上旬
馭法學生	九月上旬
下士官候補者	十二月上旬

陸達第 號

昭和八年陸達第十七號陸軍砲工學校以下學生
及練習生入學時期中左ノ通改正ス

昭和十年七月 日

陸軍大臣 林 銑十郎

表中陸軍野戰砲兵學校ノ項ヲ左ノ如ク改ム

陸軍野戰砲兵學校

甲種學生	十二月月上旬
乙種學生	二月月上旬
觀測通信學生	一月月上旬
高射砲學生	二月月上旬
照空學生	二月月上旬
情報學生	一月月上旬
馭法學生	九月月上旬
下士官候補者	十二月月上旬

陸達第 號

昭和八年陸達第十七號陸軍砲工學校以下學生
及練習生入學時期中左ノ通改正ス

昭和十年七月 日

陸軍大臣 林 銑十郎

表中陸軍野戰砲兵學校ノ項ヲ左ノ如ク改ム

陸軍野戰砲兵學校

甲種學生	十二月月上旬
乙種學生	二月月上旬
觀測通信學生	一月月上旬
高射砲學生	二月月上旬
照空學生	二月月上旬
情報學生	一月月上旬
馭法學生	九月月上旬
下士官候補者	十二月月上旬

閱

兵務

陸軍

第一三五七號其二

廢日第一二號

陸軍屬

笛田文

作

同 大久保祐吉 七郎

昭和十年七月三日 午後三時 陸軍大臣 官印

陸軍砲工學校以下學生及練習生入學時期中
改正ノ件回答

昭和十年七月八日 參謀總長 載 仁 親

陸軍大臣 林 銑十郎 殿

陸軍大臣 官印

首題ノ件ニ關シ七月四日陸普第三八四〇號ヲ以テ照會ノ趣異存ナシ

陸軍

至急

兵務

第三五二號其一

教庶第一三五七號

陸軍砲工學校以下學生及練習生入學時期中改正ノ件回答

昭和十年七月六日

教育總監 眞崎 甚三郎

陸軍大臣 林 銑十郎殿



首題ノ件ニ關シ七月四日附陸普第三八四〇號照會ノ趣異存ナシ



陸軍

2, 1352

保存期限

十年

決裁指定

決行指定

中島

九三

政務次官 回付 決裁前後連帶 陸軍省 課名 軍 考記者 衛生 永久甲 房方 補 決行(決裁)後 回覽課名

受領番號 陸軍省 貳第一三五三

件名 教導隊及練習隊下士官兵及幹部候補生分遣時期件

大臣 委

政務次官	高級副官	書記官	審案
參與官	主務副官	審記者	
局長	主務課員		
主務局長			

大臣房	主務局長	局長	局長
了結	領受	提出	領受
昭和三十七年七月十五日	昭和三十七年七月四日	昭和三十七年七月三日	昭和三十七年七月三日
(裁決)行決覽回後		帶連	
局長	局長	局長	局長
長課	長課	長課	長課

陸軍省 10.6.29 36 衛生課

左 頁

大臣ヨリ教育總監及參謀總長へ照會案(陸普)
首題ノ件別紙ノ通定ノ度異存、
有無照會ス

右異存無キ回答アリタル後

陸達案

(陸達案別紙ノ通)

陸普第三八四一號 昭和十年七月四日

陸達第十三號

十年 七月十四日

官報照會

陸軍 野戰 砲兵 學校 教導 聯隊	陸軍 砲兵 學校 教導 隊	陸軍 工兵 學校 教導 隊	陸軍 陸軍 飛行 學校 教導 隊	陸軍 陸軍 飛行 學校 教導 隊	陸軍 陸軍 飛行 學校 教導 隊	下志津 陸軍 飛行 學校 教導 隊				瀨松 陸軍 飛行 學校 教導 隊				陸軍 陸軍 飛行 學校 教導 隊				備 考							
						軍曹、 伍長	喇叭 手	喇叭 手	喇叭 手	喇叭 手	喇叭 手	喇叭 手	喇叭 手	喇叭 手	喇叭 手	喇叭 手	喇叭 手		喇叭 手	喇叭 手					
軍曹、 伍長	軍曹、 伍長	軍曹、 伍長	軍曹、 伍長	軍曹、 伍長	軍曹、 伍長	軍曹、 伍長	軍曹、 伍長	軍曹、 伍長	軍曹、 伍長	軍曹、 伍長	軍曹、 伍長	軍曹、 伍長	軍曹、 伍長	軍曹、 伍長	軍曹、 伍長	軍曹、 伍長	軍曹、 伍長	軍曹、 伍長	軍曹、 伍長	軍曹、 伍長	軍曹、 伍長	軍曹、 伍長	軍曹、 伍長	軍曹、 伍長	
約一年	約一年	約一年	約一年	約一年	約一年	約一年	約一年	約一年	約一年	約一年	約一年	約一年	約一年	約一年	約一年	約一年	約一年	約一年	約一年	約一年	約一年	約一年	約一年	約一年	約一年
六月下旬交代	十一月下旬交代	十一月下旬交代	六月下旬交代	七月下旬交代	八月下旬交代	九月上旬交代	九月中旬交代	九月中旬交代	十一月下旬交代	十一月下旬交代	十一月下旬交代	十一月下旬交代	十一月下旬交代	十一月下旬交代	十一月下旬交代	十一月下旬交代	十一月下旬交代	十一月下旬交代	十一月下旬交代	十一月下旬交代	十一月下旬交代	十一月下旬交代	十一月下旬交代	十一月下旬交代	十一月下旬交代
一 基幹兵トシテ兵約百七十名ヲ二箇月 以內殘留セシムルコトヲ得	二 前項ノ外新馬調教ニ任ズル兵約六十 二名ヲ三箇月以內殘留セシムルコトヲ 得	二 基幹兵トシテ兵約五十二名ヲ二箇月 以內殘留セシムルコトヲ得	一 軍曹、伍長ノ内八名以內ハ令遣期間 ヲ一箇年間延長セシムルコトヲ得	二 基幹兵トシテ電氣中隊以外ノ兵約 八十名ヲ一箇月半以內殘留セシムル コトヲ得	三 幹部候補生ハ甲種見込者トス	第一飛行團ヨリ令遣スル下士官、兵 (喇叭手ヲ除ク)ハ土月中旬交代セ シムルモノトス																			

附 則

本達ハ昭和十年八月一日ヨリ之ヲ施行ス
昭和八年陸軍第十六號ハ之ヲ廢止ス

陸軍歩兵學校教導隊、陸軍野戰砲兵學校教導聯隊及陸軍自動車學校練
習隊令遣下士官、兵ニ關シテハ昭和十年年度ニ限リ仍從前ノ例ニ依ル

〔参照〕

昭和八年六月陸軍第十六號ハ教導隊及練習隊下士官、兵令遣時期ノ件ナリ

陸達第 號

教導隊及練習隊下士官、兵及幹部候補生分遣時期左ノ通定ム

昭和十年七月 日

陸軍大臣 林 銑十郎

教導隊及練習隊下士官、兵及幹部候補生分遣時期表

陸軍 學校										陸軍 步兵 學校 教導 隊																			
區					分遣期間					分遣時期					摘要														
軍曹、伍長		銃工兵及喇叭手		戰車兵		其他、兵		中隊		及機		關銃		隊		無線電		信教習		隊		裝甲		自動		車隊			
約二年		約一年		約一年		約一年		約二年		約一年		約一年		約一年		約一年		約二年		約二年		約二年		約二年		約二年			
五月上旬交代		七月中旬分遣		六月下旬歸隊		九月上旬交代		七月下旬半數交代		十一月下旬交代		十二月上旬分遣		十一月中旬歸隊		八月下旬交代		五月中旬交代		五月下旬交代		四月下旬半數交代		十三月上旬分遣		十一月中旬歸隊		五月上旬分遣	
一 基幹兵トシテ兵約二百七十四名ヲ六月下旬ハ内通信隊要員ノ約二十名ハ十月上旬、戰車隊要員約十名ハ九月下旬迄殘留セシムルコトヲ得					二 各中隊ハ之ニ準グルモノヲ含ムハ爲シ得ルハ銃工兵及喇叭手各一名ヲ七月中旬迄殘留セシムルコトヲ得					三 近衛、第九、第二十師團ヨリ分遣スル兵ハ銃工兵及喇叭手ニ含ムノ歸隊ハ五月中旬トス					一 基幹兵トシテ兵約六十名ヲ二箇月以内殘留セシムルコトヲ得					二 前項ノ外無線電信教習隊ノ基幹兵トシテ約三十名ヲ三箇月以内殘留セシムルコトヲ得					三 幹部候補生ハ甲種見込者トス				

陸軍野戰砲兵學校教導隊	陸軍砲兵學校教導隊	陸軍砲兵學校教導隊	陸軍砲兵學校教導隊	陸軍砲兵學校教導隊	陸軍砲兵學校教導隊	陸軍砲兵學校教導隊	陸軍砲兵學校教導隊	陸軍砲兵學校教導隊	陸軍砲兵學校教導隊	陸軍砲兵學校教導隊	陸軍砲兵學校教導隊	陸軍砲兵學校教導隊	陸軍砲兵學校教導隊	陸軍砲兵學校教導隊	陸軍砲兵學校教導隊	陸軍砲兵學校教導隊
軍曹、伍長	軍曹、伍長	軍曹、伍長	軍曹、伍長	軍曹、伍長	軍曹、伍長	軍曹、伍長	軍曹、伍長	軍曹、伍長	軍曹、伍長	軍曹、伍長	軍曹、伍長	軍曹、伍長	軍曹、伍長	軍曹、伍長	軍曹、伍長	軍曹、伍長
約一年	約一年	約一年	約一年	約一年	約一年	約一年	約一年	約一年	約一年	約一年	約一年	約一年	約一年	約一年	約一年	約一年
六月下旬交代	六月下旬交代	六月下旬交代	六月下旬交代	六月下旬交代	六月下旬交代	六月下旬交代	六月下旬交代	六月下旬交代	六月下旬交代	六月下旬交代	六月下旬交代	六月下旬交代	六月下旬交代	六月下旬交代	六月下旬交代	六月下旬交代
一基幹兵トシテ兵約百七十名ヲ二箇月以内殘留セシムルコトヲ得	一基幹兵トシテ兵約百七十名ヲ二箇月以内殘留セシムルコトヲ得	一基幹兵トシテ兵約百七十名ヲ二箇月以内殘留セシムルコトヲ得	一基幹兵トシテ兵約百七十名ヲ二箇月以内殘留セシムルコトヲ得	一基幹兵トシテ兵約百七十名ヲ二箇月以内殘留セシムルコトヲ得	一基幹兵トシテ兵約百七十名ヲ二箇月以内殘留セシムルコトヲ得	一基幹兵トシテ兵約百七十名ヲ二箇月以内殘留セシムルコトヲ得	一基幹兵トシテ兵約百七十名ヲ二箇月以内殘留セシムルコトヲ得	一基幹兵トシテ兵約百七十名ヲ二箇月以内殘留セシムルコトヲ得	一基幹兵トシテ兵約百七十名ヲ二箇月以内殘留セシムルコトヲ得	一基幹兵トシテ兵約百七十名ヲ二箇月以内殘留セシムルコトヲ得	一基幹兵トシテ兵約百七十名ヲ二箇月以内殘留セシムルコトヲ得	一基幹兵トシテ兵約百七十名ヲ二箇月以内殘留セシムルコトヲ得	一基幹兵トシテ兵約百七十名ヲ二箇月以内殘留セシムルコトヲ得	一基幹兵トシテ兵約百七十名ヲ二箇月以内殘留セシムルコトヲ得	一基幹兵トシテ兵約百七十名ヲ二箇月以内殘留セシムルコトヲ得	一基幹兵トシテ兵約百七十名ヲ二箇月以内殘留セシムルコトヲ得

附 則

本達ハ昭和十年八月一日ヨリ之ヲ施行ス
 昭和八年陸達第十六號ハ之ヲ廢止ス

陸軍歩兵學校教導隊、陸軍野戰砲兵學校教導隊及陸軍自動車學校練習隊分遣下士官、兵ニ關シテハ昭和十年度ニ限リ仍従前ノ例ニ依ル

〔参照〕
 昭和八年六月陸達第十六號ハ教導隊及練習隊下士官、兵分遣時期ノ件ナリ

第一、臨時祭委員以下任命

三月廿八日陸軍ニ在リテハ步兵大佐牛島滿以下十一名、海軍ニ在リテハ海軍大佐田結義以下八名ニ任命シ又同委員附トシテ陸軍

閣

貳 第一三五三號其二

庚日第二 號ノ也。

教導隊及練習隊下士官、兵及幹部候補生
分遣時期ノ件回答

昭和十年七月八日 參謀總長 載 仁 親

陸軍大臣 林 銑 十 郎 殿



首題ノ件ニ關シ七月四日陸普第三八四一號ヲ以テ照會ノ趣異存ナシ



陸軍

至急

式 第一三五三號其

教庶第一三五八號

教導隊及練習隊下士官、兵及幹部候補生
分遣時期ノ件回答

昭和十年七月六日

教育總監 眞崎 甚三郎

陸軍大臣 林 銑十郎殿



首題ノ件ニ關シ七月四日附陸普第三八四一號照會ノ趣異存ナシ



陸軍

2. 1393

第一〇二號 關 八 事 與

一、總、軍、部、事、與、監、監、總、兵、官、警、察、官、二、關、八、事、與

保存期限

十年

決裁指定

決裁指定

執行指定

牛島

政務次官 回付 決裁 前後連帶

書記官

主

永代

決行(決裁)後 回覽課名

動員

陸軍省 10.7.10. 午後 時 計課

陸軍省 10.7.16. 第32號 動員課

受領 第一三〇六号

起元應(課)名

兵務課

陸軍省

10.7.16. 第32號 動員課

教導隊及練習隊下士官、兵及幹部候補生分遣
時期中變更、件

大臣委

政務次官

主務局長

參與官

高級副官

書記官

主務副官

審案 筆記者

大臣房	主務局長	受領	提出	受領	了結
昭和 年 月 日	昭和 年 月 日	昭和 年 月 日	昭和 年 月 日	昭和 年 月 日	昭和 年 月 日

連帶 局長

決行(決裁)後 回覽

局長

課長

陸軍省

陸達案

(別紙、通)

陸達第十四號 昭和十年七月十三日

官報照合

陸普副官ヨリ教育總監部庶務課長

へ通牒案

首題ノ件別紙ノ通達セラレタルニ付通牒ス

陸普第四〇二〇號 昭和十年七月十三日

Handwritten notes and stamps in the left margin, including a large circular seal at the bottom.

4 寫眞撮影ニ關スル事項

5 一般ノ取締、車馬ノ整理、憲兵及警察官ニ關スル事項

6 消防ニ關スル事項

陸達第廿號

昭和十年度ニ限リ昭和十年陸達第十三號教導隊及練習隊下士官、兵及幹部候補生分遣時期中左ノ通變更ス

官彦扣

昭和十年七月廿三日

陸軍大臣 林 銑十郎

一 陸軍騎兵學校教導隊分遣下士官、兵中八月下旬交代スベキ中隊及機關銃隊ノ兵中十五名(基幹兵ヲ含マズ)ヲ十月下旬迄殘留セシムルコトヲ得

二 陸軍騎兵學校教導隊、無線電信教習隊及同裝甲自動車隊、項中區分、分遣期間及分遣時期ハ左ノ通トス

學校	陸軍	無線電信	軍費係長	右以外ノ人員	約九月	七月下旬交代但シ三名ヲ九月下旬迄(内二名ハ十一月下旬迄)殘留セシムルコトヲ得
區					約一年五月	十二月上旬分遣
分			昭和十年三月平時編制ノ改正ニ依リ變更シタル人員			
分遣期間						
分遣時期						

陸軍騎兵學校教導隊					
裝甲自動車隊				教習隊	
其 他 兵	喇叭 手	銃 工 兵	軍 曹、 伍 長	兵	
				右以外ノ人員	<small>昭和十年三月平時編 制ノ改正ニ依リ繰及 更ニタル人員</small>
約十一月	約十一月	約一年	約一年五月	約九月	約五月
十二月上旬分遣				八月下旬交代	十二月上旬分遣

三陸軍工兵學校教導隊分遣兵(電氣中隊分遣ノ兵ヲ除ク)中九月
中旬交代スベキ兵三十名(基幹兵ヲ含マズ)ヲ九月下旬迄殘
留セシムルコトヲ得

理由

- 一陸軍騎兵學校教導隊兵殘留者ハ本年十月下旬、特別騎兵演習參加、爲必要ナリ
- 二陸軍騎兵學校教導隊、無線電信教習隊及同裝甲自動車隊ハ平時編制改正、結果過渡期タル昭和十年ニ限り右表、如ク變更、必要ヲ生シタルニ由ル
- 三陸軍工兵學校教導隊、殘留兵ハ昭和十年九月中旬ヨリ同月下旬迄實施豫定、特別工兵演習參加、爲必要ナリ

至急

訓令第一三〇六號



陸軍

教庶第一二八六號

陸軍工兵學校教導隊分遣兵中ノ一部歸隊延期ノ件
照會

昭和十年六月廿七日

教育總監 眞崎 甚三郎



陸軍大臣 林 銑十郎 殿

本年度實施豫定ノ特別工兵演習ニ參加ノ爲必要ニ付別紙理由ニ依リ
陸軍工兵學校教導隊分遣兵中ノ一部ヲ左記ノ通歸隊延期方取計ハレ
度照會ス

記

- 一 人員 兵 三十名
- 二 延期期間 九月下旬迄

理由書

一、本年度特別工兵演習ニ参加スハ、陸軍工兵學校兵員中本年九月中旬交代セル新分遣兵ヲ以テ充當シ難キ人員計七十六名ニシテ其理由左記ノ如シ

(1) 特種機舟ノ使用ニ要スル人員 兵 二

快速艇一 曳舟四 打疊重門橋 四 (操舟機各舟

三完) 及特種操舟機舟四ノ使用ニ任セシムルモノ

ニシテ該機舟ハ工兵隊ニ配當セラレアラサルヲ

以テ此等ノ教育ヲ受ケタル現分遣兵ヲ充當ス

ルノ必要アリ

(2) 無線機 (電信電話兩用) 使用ニ要スル人員 兵 九

無線班ノ基幹要員ニシテ之カ為豫メニケ月ノ準

備教育ヲ要ス而シテ此等ノ人員ヲ演習参加ノ在

京工兵隊ヨリ差出サシムルコトハ演習員ノ關係

上不可能ナリ

○ 自動車運転ニ要スル人員 兵一〇

機械ニ不慣レナル新分遣兵ノミヲ以テ之カ操縦

ニ任セシムルコトハ危険ナリ 現分遣兵ヲ以テ

之カ基幹タラシムルノ要アリ

○ 氣象鳩取扱ニ要スル人員 兵一六

新分遣兵ニハ教育ノ餘日ナシ

(ホ) 救助舟使用ニ要スル人員 兵一八

演習真前ニ交代セル新分遣兵ノミヲ使用スル

ハ萬全ヲ期シ難キヲ以テ大河ノ渡河訓練ヲ經

タル現在分遣兵ヲ以テ其基幹タラシムルノ要

アリ

(ハ) 狀況現示ニ要スル人員 兵一〇

廣地域ニ分散服務セシムルモノニシテ殊ニ相當

在井井

社宮司ニ傳達ス

祀通知並ニ參拜案内狀ハ三月三十日迄ニ發送セリ（維新殉難者一名ハ四月六日合祀御出サレ即日發送ス）

陸軍

此種ノ作業ニ慣熟シアルヲ必要トスル爲此等ノ基幹要員トシテ必要ナリ

二然ルニ特別工兵演習間校内勤務ニ要スル兵員ノ爲基幹兵ハ三十四名ヲ充當セハ足り殘餘四十六名ヲ演習ニ參加セシメ得

三以上ニ依リ新分遣兵ヲ以テ充當シ難マ兵員七十六名ニ對シ三十名不足スルコトトナリ之ヲ現分遣兵ヲ以テ充テ該人員ノ原隊歸還ヲ延期セシムルノ必要ヲ生ス

四延期日次ハ演習終了後成ルヘク速ニ歸校セシムル如ク考慮セハ九月三十日退校セシムルコトヲ得

(N) 今回、各洋、中、外、以、元、辨、蓋、關、給、答、八、限、二、箇、書、據、出、七、三、三、八、意、參、詳、又

寫

兵務

陸軍省 第一二〇〇號



陸軍

教庶第壹壹六六號

陸軍騎兵學校放導隊下士官兵人分遣

時期変更、件通牒

昭和拾年六月拾貳日 教育總監部庶務課長 甘粕重太郎

陸軍省副官 牛島 滿殿

首題ノ件ニ関シ昭和十年度ニ限リ昭和八年陸
達第十六號放導隊及練習隊下士官兵人分遣
時期中迄記ノ通変更相成度依命通牒ス

記

陸軍騎兵學校放導隊人分遣兵中十五名(基幹
兵ヲ含マス)ヲ十月下旬迄殘留セシムルコトヲ得
理由本年特別騎兵演習參加、爲有線通信要
員八名、裝甲自動車要員七名必要トス

陸軍省
福富

陸軍省
第一二〇〇號

教庶第一一六六號

陸軍騎兵學校教導隊下士官、兵分遣時期
變更ノ件通牒

昭和十年六月十二日
教育總監部庶務課長 甘粕重太郎

陸軍省副官 牛島 滿 殿

首題ノ件ニ關シ昭和十年度ニ限り昭和八年陸達第十六號教導隊及練習隊下士官、兵分遣時期中左記ノ通變更相成度依命通牒ス

記

陸軍騎兵學校教導隊分遣兵中十五名（基幹兵ヲ含マス）ヲ十月下旬迄殘留セシムルコトヲ得

理由 本年特別騎兵演習參加ノ爲有線通信要員八名、裝甲自動車要員七名必要トス

陸軍省
6.13
庶務課

陸軍省

陸軍省
106.13
庶務課

閱

事務

事務

軍事

事務

七月十八日

陸軍省 第一四三〇號

放庚第三八八號

在隊下士官候補者教育，參考送付，件通牒

昭和十年七月九日

教育總監部庶務課長甘粕重太郎

陸軍省副官 牛島 滿殿

首題，冊子為參考送付ス

(五部)

昭和十年七月十二日

陸軍省 第一四三〇號

陸軍省

陸軍省 第一四三〇號

事務

陸軍省 第一四三〇號

陸軍省 第一四三〇號

在隊下士官候補者教育ノ參考

教育總監部
昭和十年六月